

行動する市民への援助を惜しまない。

「議員だからこそ公正な市政運営を鋭く、粘り強く追及し改善する」という言葉どおり、2008年には黒須市長の資産公開内容から、市長の黒須建設の保有株数を調査し明らかにした。このことから、市長の親族企業が八王子市発注の公共事業へ参入することを追及し、井上さんをはじめ13人の議員連携で政治倫理条例の運動をすすめた。

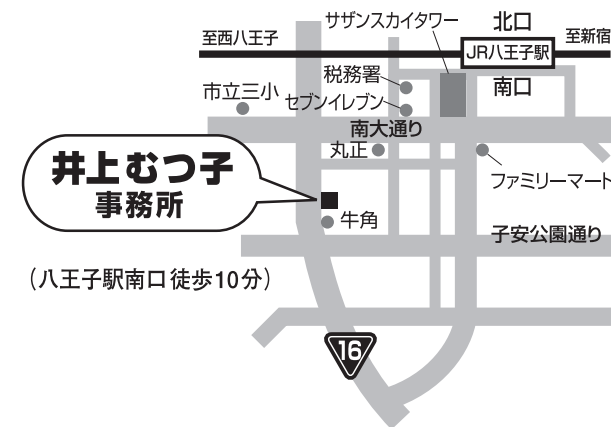
このたびの東日本大震災は取り返しのつかない人災、原発事故をもたらした。首都東京の水道水への放射能汚染が報じられたが、都水道局は八王子市の一部である多摩ニュータウンの配水経路の確認を誤っていた。多摩地域で中学教員であったNさんから井上さんへ「以前は八王子市の1部にも金町浄水場から配水された」との指摘

を受け、井上さんはすぐに八王子市に都水道局への詳細な配水状況の確認を要請した。その後改めて新聞報道や、都水道局の各戸訪問により訂正されたのである。東京都や八王子市のライフラインに対する責任の欠如に驚く。ニュータウン地域の行政サービスについては今後も住民とともに監視し、改善につなげてもらいたい。

きびしく役割を認識する感性とともに、井上さんの明るい持ち味は政治家の大切な要素である。英国の古い童謡マザーグースの一節ではないけれど、「井上さんは何でできてる?」と問われると「おおらかさと思いやり」「大きな声と笑顔」「楽しい酒、自然と文化への共感」と答えられるだろう。市民にとって必要な存在、井上さんを次期も八王子市議会に送りたい。

井上むつ子 事務所開きのご案内

とき 4月17日(日) 午後2時～
ところ 八王子市万町37 メゾンピリカ1F
TEL/FAX 042-626-9512



井上むつ子後援会へのご支援とカンパをお願いします。

郵便振替口座 00140-7-98039
加入者名 井上むつ子後援会

社民党 東日本大震災支援

- 支援物資を受け付けています。ご協力いただける方は、下記にご連絡下さい。
社民党 東日本大震災対策本部 TEL03-3592-7502
〒100-8909 千代田区永田町1-8-1 (支援物資送付先)
- 募金にご協力を
口座名: 社民党災害救援基金 口座番号: 1543988
金融機関: 中央労働金庫 霞ヶ関支店

2011 5・3 憲法集会 “生かそう憲法 輝け9条”

日時: 5月3日 12:30開場 13:30開会
場所: 日比谷公会堂

スピーチ: 三宅晶子さん(千葉大学教授)
伊藤千尋さん(ジャーナリスト)
福島みずほさん(社会民主党党首)

ピースウォーク

日時: 毎月第2土曜日
5月14日(土) 6月11日(土) 7月9日(土)
(16:00集合 16:30出発)

場所: 船森公園(京王八王子駅2分)
主催: Please No War 市民の会
連絡先: 090-4427-9234 (井上)



社会新報

Social Democratic Party
発行所
社会民主党全国連合機関紙宣伝局
週刊(水曜日発行)
〒100-8909 東京都千代田区永田町1-8-1
電話代表03(3592)1171・編集部042-1-3203
●定価 180円 ●1ヵ月 700円 ●送料 160円

八王子市議会議員

2011年4月11日発行

井上むつ子 活動報告

<http://www.inouemutsuko.net>

〒192-0904 八王子市市安町4-28-11-201 TEL&FAX 042-626-6435 e-mail: info@inouemutsuko.net

力を合わせて生活再建、復興へ

3月11日の東日本大震災は、多くの尊い生命と生活基盤を一瞬のうちに奪いました。亡くなられた皆様のご冥福をお祈りし、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。そして、懸命の捜索・復旧事業にたずさわられている方々の献身的な活動に敬意を表します。

大震災や原発事故の惨状が報道されるの毎日の中で、被害の甚大さに驚愕し、自分に何ができるだろうか考える日々でした。また、被災地の首長の姿に「住民の生命と財産を守る自治体の役割」の重さを痛感しました。

八王子市は支援対策本部を設置し、義援金や被災者への住宅支援などに取り組んでいます。市議会として私も義援金の街頭募金活動に参加しました。3月31日現在、被災者への温かい気持ちと共に1億602万円もの義援金が集まっています。市内でも親戚や知人を頼って被災者の方たちが避難生活を送っておられます。住居や医療介護など行政の支援がきめ細かくできるよう、要望を届けていきます。

震災から約1ヶ月、復興に向かって被災者や自治体、企業が動き出し、全国からボランティアなどの支援の輪が広がっています。今までの「強いものだけが勝てば良い」といった弱肉強食の考えから、「共に支えあい力を出し合おう」という社会連帯の意識へと、社会は変わりつつあると感じています。

支えあって、生活再建と復興に力を合わせましょう。

「脱原発」社会へ、エネルギー政策の転換を

福島第一原子力発電所の事故は、現場の鎮圧努力にもかかわらず、極めて深刻な事態に至っています。放射能が漏出し、大気や土壌、水道水や野菜へと汚染が広がり、海への汚染水の放水による漁業への打撃は回り知れません。

政府や東京電力は最悪の事態も想定しながら、不安や不信を払拭するために正確な情報を公開し、被爆のリスクについても正しく説明すべきです。そうすれば、市民は正しい情報を得て、冷静に行動することができます。

原発事故は人災です。これまでの「原発は安全」という神話もろくも崩れ去りました。人間が制御できないシステムである原発から、再生可能な自然エネルギーに大胆に転換すべきです。

井上むつ子

2011年度 八王子市の予算は **総額 3314 億円** 開発より教育・福祉へ予算を

2011年度の予算を審議する第1回定例議会は、2月28日から開催されましたが、3月11日の大震災への対応を優先するため、議会日程は大幅に短縮されました。11日に予定していた私の予算に対する総括質疑は中止となりました。そごうデパートの撤退問題や雇用の確保、教育予算などに対する十分な審議ができませんでしたが、地震警報が引き続き出され、被災者支援や計画停電に対応するためには、やむを得ないことでした。

臨時財政対策債(赤字地方債)の発行は、財政再建に逆行

八王子市の一般会計予算は1855億円、特別会計をあわせて総額3314億円となりました。市税収では906億円を見込んでいますが、東日本大震災と福島原発事故によって、日本経済は深刻な打撃を受けています。この影響は図りしれません。税収が確保できるか、大変厳しい財政運営が予想されます。

市は、財政再建を掲げ、2008年度までは赤字地方債といわれる臨時財政対策債(臨財債)を発行してきました。しかし、八王子駅南口再開発事業が本格化した2009年度に41億5千万円、2010年度には60億円を発行し、2011年度は50億円を予定しています。昨年8月、行革推進審議会から出された答申では、「臨時財政対策債は、当該年度の財源不足の負担を将来に先送りするものであることを忘れてはならない」と警告を発せられています。

予算委員会で、市長は「有効に活用する」と答弁していますが、これは財政再建に逆行するものです。臨財債は今後3年間に、地方交付税の不交付団体

予算は、雇用・経済対策としてリフォーム助成や雇用維持奨励金など評価できる点もありますが、川口地区の物流拠点整備のための北西部幹線道路や旭町・明神町の再開発事業予算も組まれており、ハード部門への投資が今後も拡大していく傾向にあります。他方、生活保護費が200億円を超え、少子高齢化と貧困化が進む中、扶助費の増大は不可欠です。ハードからソフトに予算の使い道を変えていくべきです。

には配分しない方式に移行することになりました。八王子市は、2010年度に続き2011年度も交付団体となる見通しです。今後、不交付団体となった場合は、臨財債の発行はできなくなり、歳入は縮小し、歳出削減をしなければならなくなります。借金である臨財債に頼らない長期的な財政運営の視点が必要と、反対討論で指摘しました。

個人市民税	35,179,275 (対前年度 -632,405)
法人市民税	6,874,731 (対前年度 +1,807,870)
総合計	42,054,006

国庫支出金	6,302,200
都支出金	2,391,679
地方債	9,576,000
一般財源	6,016,417
総合計	24,286,296 ※2010年度予算の概要から

最高裁の人権感覚—簡易裁判所のエレベーター設置問題



八王子市は、八王子簡易裁判所の建設にあたってエレベーターの設置はしないとする最高裁と2年に及ぶ交渉を重ねてきた。最高裁は、バリアフリー法が求める「不特定多数が利用する官公署」に2階建ての簡易裁判所はあたらぬという。国交省も最高裁の見解を認め、市もエレベーター不設置で手続きを進めていた。

これに対して、弁護士会や障がい者団体が強くエレベーター設置を求めて最高裁や市に働きかけ、

市長が建築の同意を保留することで、最終的には設置に至った。

しかし、全国のほとんどの簡易裁判所にはエレベーターは設置されていない。今後も設置の方向ではなく、八王子の場合が特別なのだという。裁判所は法の番人である。法律を都合よく解釈するのではなく、最高裁にこそ人権尊重を基本にした法の解釈と運用を求めたい。

心から信頼する 井上むつ子さんに **期待します**

社民党党首 福島みずほ



いつも元気に活躍している井上睦子さんが大好きで、心から応援しています。皆さんも、井上さんが八王子の市議会議員としてどれだけ活躍されているか、よ〜くご存知だと思います。井上さんは自治体議員として、ベテラン中のベテランであり、八王子市にとって、そして社民党にとっ

て、とても大切な存在です。今回の震災を機に、私は、地域住民の直接の窓口になる自治体の力、そして自治体議員の底力が問われていると痛感しました。その点で、コツコツとまじめな井上さんに、これからも八王子市民のために、地域の生活を守り続ける議員として、存分に力を発揮していただきたいと思います。私も党首として先頭をきって応援します。

館町在住 鶴沢 一子

井上さんの、もうずっと以前に初めて聞いた時から変わらない端正な話し方が好きです。やさしく気さくな人柄や様々な課題への誠実な向き合い方も含め、地域の政治家として信頼関係を育んでいける人だと、そこがなによりいいなと思っています。どういう場面でも井上さんが同じ市民という気持ちでいると感じられることがとても得がたいことに思えます。

02年から Please No War 市民の会が続けている毎月1回のピース・ウォークでは八王子の街を歩きながら「憲法9条を生かしていこう」と訴えています。ここでも井上さんは大切な仲間です。平

和憲法を生かそうという思いを地域から根付かせ広げていくためにも、井上さんにはまだまだ議員として頑張ってもらいたいと思います。

3.11以後、私たちは何をどう学ぶのか。問題はあまりに大きく重いようで、しかし課題ははっきりしているかもしれません。原発無しの社会への転換の道筋、生産と消費、廃棄物処理、エネルギー供給その他のより良い形などをどうイメージするのか。いずれにしても暮らし方の見直しは不可欠、そして「地域というまとまり」の意味は大きいと改めて感じています。地域で、地域から、井上さんの市議会議員としての活動に期待します。

主権者としての市民に必要な存在

松が谷在住 遠藤 真子

4月17日からはじまる八王子市議会議員選挙、井上睦子さんは今回で7期目の立候補となる。井上さんは憲法に保障された「国民が健康で文化的な生活を営むために」存在する自治体の運営について「人権」という基本に立ち、点検と指摘・提案を行っている。野党という立場からの厳しい目線と追及に、対峙する側の幹部職員からも「ぶれないポリシーに脱帽の極み」という賛辞の賀状が届くほどである。政治にプロはいらないというグループもあるようだが、井上さんの市議会での活躍ぶりは年を追うごとに進化し、地方自治の本旨を踏まえた施策追求の姿勢は、経験の蓄積と研鑽に裏付けられたプロのものである。

誰でもが議員になれるということは一方で議会の議論の質を低下させ、モノ取りに終始しがちなのを否めない。会派や議員個人の手柄報告のために議会の議論が流れる傾向はないのかと心配になってくる。

政治家としての歩みの中で培い信頼関係を築いてきた幅広い市民グループとの関わりには、労を惜しまぬ情報収集と提供に加え、必要としていることへは快く手助けをする。成果があれば「それは市民の力だから」ときっぱり答える。「議員を通さなければ改善しないと思っている人もいるけれど、市民生活の必要なことに行政は応えるものだ」と行政への信頼を語りつつ、